

韓国骨髓バンクとも 来春提携へ

全国協議会 ニュース

発行所
全国骨髓バンク推進連絡協議会
〒160 東京都新宿区愛住町23-1
Woody21-9階
TEL.(03)3356-8217
FAX.(03)3356-8637
発行責任者
渡辺孝一
http://www.marrow.or.jp/
E-mail:info@marrow.or.jp

郵便振替口座
00150-4-15754
銀行口座
さくら銀行 新宿支店
普通 5666655

10月5日午後、兵庫県立先端科学技術支援センター大ホールにおいて「アジア太平洋骨髓バンクフォーラム」(骨髓移植推進財団主催・関西骨髓バンク推進協会主管・全国骨髓バンク推進連絡協議会等後援)が開催されました。

これに先立ち、5日前には日本・台湾・韓国の各骨髓バンクを代表する担当者による会議がもたれました。その席で、日本骨髓バンクと韓国骨髓バンクとの提携を推進することが決まり、来春から試験的な提携関係にはいることになりました。

これは、午後のフォーラム第一部で、財団の岡本真一郎国際委員長が明らかにしたもので

アジア太平洋骨髓バンクフォーラム ●国際協力の推進を確認

10月5日の「アジア太平洋骨髓バンクフォーラム」には全国から約250名(財団発表)の参加者を得て、開催されました。厚生大臣祝辞(代読)では、骨髓バンクの国際協力を積極的に推進する旨の挨拶がありました。

第一部では、台湾と韓国の両国骨髓バンク代表から、それぞれの発足経緯と歴史、ド



第1部 各国代表者によるパネルディスカッション

ナー募集方法の現状や国際協力についての報告がありました。さらに、オーストラリアのドナー体験者とシンガポールの骨髓移植患者から、それぞれの体験と感想、そして国際協力の期待などが語り合われました。

引き続き第二部では、日本の移植患者、在米日本人の移植患者(日本骨髓バンクから海外への提供による第1例)さらに在日韓国人のドナー登録者と地元青年会議所代表の方たちによるパネルディスカッションが行われました。国際協力を期待するか、今後の日本バンクに必要なことなどが話し合われ、患者・ドナーの立場から、そして一般市民の視点からの討論が繰り広げられました。

岡本委員長は「日本と韓国は来春4月から試験相互検査の開始をめざし準備に入る」とし、また、現在試験的な提携関係にある台湾骨髓バンクとは「来年4月をめどに正式提携を結ぶ」ことを発表しました。

日本人と合わせて近似的なHLAをもつ韓国骨髓バンクとの提携が決まったことで、日本でドナーが見つからない日本の患者さんや韓国でドナーが見つからない韓国の患者さんにとっては、大きな希望が生まれることになりました。一刻も早く実務的な提携が実現するよう、担当者のご努力を期待したいと思います。



第2部の元患者等によるパネルディスカッション

非常に有意義な催しではありましたが、多くの市民が参加できる会場でなかったことが残念でした。

福井の会が 全国協議会に加盟

「福井骨髓バンクサポーターの会」が全国協議会の第29団体目として加盟申請があり、10月の運営委員会で加盟が正式承認されました。

福井の会からのメッセージが届いています。



福井サポーターの会代表 井上直子さん

全国協議会加盟団体の皆様、こんにちは。「はじめまして」と言っても、私たち福井側の気持ちは実はとつくとつに一心同体。一人でも多く、一日でも早く大切な命を救いたいという願いがありました。これまでも全国協議会にはたくさん、指導して頂いて参りましたが、これで晴れて同志と言えます(か?)。代表は、NY滞在中に子供が発病し、米国人たちに支えられて帰国し、帰国後に日本では医療は違うし子供がイジメにはあうし社会は無理解だしでカルチャーの違いにショックをうけ「日本人やめたーい!大嫌い」と思っていたところを、バンク運動と今の仲間「日本にもこんな人たちがいる」と教えられました。骨髓バンクボランティア団体の結成が恥ずかしいほど遅

ていた福井でしたが、こんな微弱な私たちが、夏には「金色のクジラ」を上映し、2千人を越す人々に感動を届けました。協力者も少しは増え、この10月、県内の全小学校に金色のクジラの原作本と、新潟の「命のアサガオ」を寄贈する計画までできるようになりました。甘えてばかりはいられないけど皆様よろしくお願ひ致します。

【連絡先】
福井骨髓バンクサポーターの会
福井本部 TEL/FAX 0776-330480
TEL/FAX 0770-226656
敦賀支部 TEL/FAX 0770-226656

「明日の骨髓バンクを
考える」
公開フォーラムを開催

公的骨髓バンクが設立されて、この12月で丸6年たちます。この間、1300人近くの患者さんが、善意のドナーからの提供による骨髓移植を受けました。しかし、ドナー登録者数の伸び悩みなど、課題が山積しているのも事実です。そこで、これまでの実績を振り返りながら、様々な課題を解決するために各界の代表者がパネルディスカッション形式で議論しあい、

会場参加者の意見をも交える討論によって、「明日の骨髓バンク」を目指すことにしました。奮ってご参加ください。

NMDP年次総会出席報告 来年は「あやちゃん展」開催

9月26日から3日間、米国民neapolis市においてNMDP(全米骨髓バンク)の第10回年次総会が開催され、全国協議会を代表して参加しました。これを機に「あやちゃん」の贈り物展」を今回の総会会場で実施し、世界各国の骨髓バンク関係者に披露したかったのですが、受け入れ側の準備が整わず今年度開催を断念し、来年度実施することになりました。

10周年記念として例年以上



公開フォーラム「明日の骨髓バンクを考える」
会期：1997年11月8日(土)～9日(日)
会場：全労済東京レインボー会館3階会議室
(新宿区西新宿7-20-8)※「新宿」徒歩8分・地下鉄丸の内線「西新宿」3分
主催：財団法人骨髓移植推進財団
全国骨髓バンク推進連絡協議会
後援：骨髓バンクを応援する若手国会議員の会

●11月8日(土)13:00～
・主催者あいさつ
・第1部「ドナーサイドの問題」
ドナー登録拡大のための登録手続きの改善、普及啓発活動のあり方、ドナーの負担軽減、ドナーの安全確保、家族同意の必要性、患者・ドナーの対面などの問題について

・18:30～懇親会(自由参加・参加費は3500円)

●11月9日(日)9:00～15:00
・第2部「患者・家族サイドの問題」
移植機会の拡大、患者が医療選択するための医療・バンク情報の公開、国際化に対応した患者登録とコーディネート手続きの迅速化、医療体制の充実、患者・家族の相談援助窓口の設置、患者負担軽減と経済的援助などの問題

・第3部「明日の骨髓バンクのために」
効率的なシステムの構築、国際標準への準拠の提言、すべての患者とドナーが希望の持てる公平な運営と理念の確認、事業の安定的発展を保障する財源確保、医療保険適用の可否などについて

骨髓バンクの最新情報をお知らせする

●アメリカからの提供による骨髓移植第1例を実施
9月24日ハワイ在住のアジア系ドナーから骨髓液の提供を受け、東京都内の大学病院で、日本の患者さん(50歳男性)に、日米骨髓バンク提携後、第1例目の骨髓移植が実施されました。今後、アメリカからの骨髓提供により毎月1、2例程度の骨髓移植が行われる予定であり、一方年内にも日本からアメリカへ骨髓提供する見通しも出ています。

●アメリカ・台湾との相互検査状況(本年4月から9月末まで)
日本→アメリカ 予備検査119件(適合60件)正式登録58件、移植1件
アメリカ→日本 照会25件、正式登録・検査5件(適合3件)
日本→台湾 予備検査51件、正式登録11件(適合1件)
台湾→日本 照会0件、正式登録0件、(適合0件)

●西武新宿駅前に街頭キャンペーンを実施
10月18日西武新宿駅へ前において3年連続で東京新都

骨髓バンクNOW

心ライオンズクラブと共催で街頭キャンペーンを行い、多くの市民の皆さまに骨髓バンクの啓発を行いました。

●「東海・北陸地区骨髓バンク推進連絡会議」開催のお知らせ
来る10月24日午後1時から石川県金沢市の石川厚生年金会館にて、関係者が一堂に会して推進連絡会議を開催します。率直な意見交換により、当該地区での骨髓バンク事業の推進が期待されます。

[9月末現在検査済みドナー登録者 87,297人]
[9月末現在患者登録者 5,676人]
[8月末現在移植件数 1,272例]

骨髓バンクボランティアダイヤル
フリーダイヤル
0120-892-106

**心からのご寄付を
ありがとうございました**

8月26日～9月22日

千葉市立川戸中学校	現金	10,000円
(財)ライオンズ日本財団	現金	3,500,000円
山崎久江	現金	10,000円
橋本雅子	現金	33,000円
山村昭一郎	切手	1,000円
シンボ有志	現金	8,236円
匿名	現金	14,000円
阿原一良	現金	10,000円
中谷光子	現金	1,440円

(敬称略)

活動資金の援助をお願いします
銀行口座
さくら銀行 新宿支店
普通 5666655
郵便振替口座
00150-4-15754
全国骨髓バンク推進連絡協議会

(三田村)

広がれ 骨髄バンク キャンペーン



各地の報告

釧路 雨の中で キャンペーン

9月28日、土砂降りの雨の中をボランティア・協力団体の総勢100名が、市内5カ所に集合し、キャンペーンが始まりました。

うち1カ所では、登録ハガキの受付を手製のポストで行いました。高校生から、かなり高齢の主婦の方まで、一所懸命PRしてくれました。

ハガキは、ご夫婦連れの2人が書いてくれただけなのに、お父さんにとっさされた赤ちゃんのあどけない笑顔が私たちのこころを温めてくれました。雨の中で、街頭でのPRだったので、登録希望者への説明を充分にするのは少し難しかったように思いますが、おむね成功だったように思える1日でした。(小川真里)



大雨の中チラシを配布(写真提供: 釧路新聞社)

札幌 ランナー1万人に リーフレット

札幌では、10月5日に1万人のランナーが出場した第22回さっぽろマラソン大会会場で、広がれキャンペーン第2弾を行いました。大会実行委員会の協力により、ゼッケンとともにギフト・オブ・ライフを事前配付できたことが功を奏したのか、当日、キティののぼりがはためく



骨髄バンクコーナーには、ゴール直後のランナーなど数十名が訪れ、そのうち15人の方が登録申込のハガキを書いてくださいました。

私も骨髄バンクのたすきをかけてレースに参加しましたが、沿道からの温かい声援に励まされ、何とかゴールすることができました。来年の大会ではボランティア仲間とチームを組んで出場予定です。(富山)

宮城 石巻シンポ

仙台に続き9月14日に石巻市労働会館で150人の市民が参加してシンポジウムを開催しました。またこのシンポジウムは石巻支部設立5周年を記念しての行事でマモ展との同時開催でもありました。この会場は石巻支部の発会式をした思い出の会場でもあり「小さな会場を満杯に」を合い言葉に準備を進めましたが、この日はあいにく朝から強い雨が降り続き、本当に心



宮城骨髄バンク石巻支部 設立5周年記念ミニシンポジウム

配でした。しかし、開演時間が近づくにつれ、大勢の人たちが参加してくれてあわてて前に詰めてもらおう一幕もありました。ボランティアで来てくれた東日本放送の山口アナウンサーの司会で始まり、石巻赤十字病院の矢野友明先生が、「なぜ骨髄移植が必要か」をわかりやすく説明されたあと、東北労災病院院長の吉永馨先生が「いのちの連帯」という演題で講演。そして移植体験者の菊田さんの特別発言があり、最後には山形から来てくれた小野寺さんが引っぱり出されスピーチ、参加してくれた人たちは熱心に聞き入りメモを取る人が多く見られ、終了後多くの人たちに「ありがとう」という声をかけていただきました。終了後の打ち上げで飲んだ酒のうまかったこと……。

福島 ハートフル サタデー104



この運動は、地元有志が地域のため市民のため何か息の長い運動をやろうと仲間と相談していたところ、当時、福島県内特に郡山市で血液が相当数不足しているとの情報を聞き、各種団体や個人に協力を呼びかけ、毎年10月第1土曜日を「ハートフルサタデー」と定め始めた。献血推進運動で今年で8年目を迎えます。

内容はただ呼びかけるのではなく、県内の献血バス全車を一堂に集め、献血された分、栄養を補給して頂くとうと芋煮や餅などの食べ物や各種果物、飲み物を豊富に取り揃え、全て無料で提供、献血を待つ時間も血液型

占いや指圧などの各種イベントを準備、お祭りの気分分で献血を楽しみながら意識の高揚も図っています。

特に今年は骨髄バンクからハリー会に要望、サイドカー付きハリー13台の協力を得てバンクや献血の幟を持って街頭パレードを実施、他に試乗会や記念写真撮影などを行い運動を盛り上げました。

骨髄バンクのPRコーナーの設置も六回目となりキャンペーンの一環として行った登録ハガキ投函希望者は3名でした。わずかですが着実に登録者をのばすには、継続した運動の必要性を痛感した一日でした。(坂本)

富山 ティッシュに ポケケカレ大人気



ワタシも募金します。(写真提供: 毎日新聞社)

9月28日、富山県では2箇所街頭キャンペーンを行いました。チラシ(富山の会のキャラ入りチラシ)、キティちゃんのポケットカレンダー、れれちゃん(うちの会のキャラクター)のポケットティッシュを各2000配布。やっぱり、ティッシュやポケットカレンダーと一緒にチラシも受け取って貰える率が高かったです。キティちゃんのものよりもチョーかわいくて人気でした。

ドライブインですが……、やる前はどうかかなあと思っていましたが、2名の方が登録のハガキを記入してくださいました。いいヤツじゃないか!

合わせて募金も行い、2時間が終了しました。前日は大雨でしたので、心配しましたが、当日は晴れて気持ちよく(?)キャンペーンをすることができました。ヨカッタヨカッタ。(油野)

東京 品川宿場祭りの「福」



おてもやんの昼食

その姿を目の当たりにすれば、腰が砕け、腹の皮がよじれ嫌な事をすべて忘れることができます。まさに「福」の到来です。毎年恒例の「品川宿場祭り」での出来事。お祭りのパレードは仮装行列も行います。今年の東京の会自信作は「福」が演ずる「おてもやん」。美女2人が颯爽と纏った火消しと手古舞を演ずるも注目はずべて「おてもやん」。見た人をすべて幸せにしてしまう「福」でした。途中雨がぱらついたものの、バザーも大変好評で、マリィンロータリークラブの皆さんと共に声を張り上げ大忙し。バザーの横に設置したドナー登録受付窓口では、パレードに参加したJALの美人スチュアデス5人組が登録ハガキを記入してくれました。合計8名がドナー登録ハガキを記入してくれました。目の前で実際の登録受付を見る事は、私たちの活動の成果を確認できる最も嬉しい瞬間でした。

香川 健康フェスタでPR

10月4・5日高松市サンメッセ香川にて「香川健康づくりフェスタ97」に香川県臨床衛生検査技師会が骨髄バンクコーナーを設け県民に骨髄バンクの必要性を普及啓発を行いました。



ご存知ですか? 骨髄バンク

当日は全国協議会のグッズ「キティちゃんカレンダー」と「キティちゃんティッシュ」を配り「命のボランティア」をビデオ放映しました。

数名の方から骨髄バンクへの登録方法の質問があり、一緒に啓発活動に参加された検査技師の方もチャンスを手に入れた「登録しよう」と登録申し込みハガキを記入されました。

香川は全国協議会未加盟地区で、今回のキャンペーンで大きな輪が広がるきっかけになればと思います。

会場では骨密度検査・血液検査他コーナーや、ダンブ松本さんのトークショー(血液検査ではあの太い腕に注射針がなかなか刺さりませんでした)など、ざやかで初日5千人・2日目1万5千人の来場者がありました。

鹿児島 2会場で50名の登録



チャンスのハガキ記入中

本場の「讃岐うどん」の屋台もあり、舌つづみをうちました。(山村)

第一会場は天文館献血ルーム前で「かごしま骨髄バンク推進連絡協議会」のメンバー8名が参加し、通行の人々に登録の呼びかけを行った。その場でチャンスのハガキに記入し用意してあった手作りの郵便ポストに14名の方が投函してくれました。

第二会場は山形屋アーケードで鹿児島山形屋ライオンズクラブ50人と一緒に呼びかけ36名の方が投函されました。2つの会場で50名のハガキによる申込があったのは正に画期的なことでした。

遠藤 允の会報づくり講座その⑧

文字編 カタカナ

カタカナはもっぱら外来語や外国の人名・地名に使われることが多いが、「日本語の乱れ」が論議されるとき必ずやり玉に挙げられるのが外来語だ。日刊新聞は以前から「外来語の使用はなるべく控える」方針をとっている。

が、医学用語が頻出する骨髄バンク関係ではそうもいってられない。運動の初期に「ドナー」を「提供者」で統一しようという動きもあったが定着しなかった。「ボランティア」も今では普通の言葉となっている。それでも会報はバンクになじみのない人も読んでいるので、なるべく日本語を使う工夫が望ましい。

それと、外来語に見えても「和製語」という厄介なものがある。あちこちでプログラムの誤用が目立つのが「パネラー」だが、これは正しく「パネリスト」を使いたい。さらにいえば、現在はV音を「ヴ」と表記することが

認められているが、英語のスペルを確実に知らないとかえって恥をかくことになる。

またパレーとパレエ、ポウリングとポーリングの違いなどもあるが、単純そうに見えるカタカナにも「統一表記」があり、以下に例を示す。

アイデア、アタッシュケース、アフタケア、イニシアチブ、ウオツカ、エキシビション、エンターテインメント、オンブズマン、カムフラージュ、ギブス、キュービッド、クエスチョン、グラウンド、グロッキー、ジグソーパズル、シミュレーター、ジャンパー、ジュラルミン、スパゲティ、セロハン、ソシアルケースワーカー、ソファ、ダイヤル、デイケア、テレホンカード、ドア、バリウム、ファクス、ファストフード、ブレイガイド、プロマイド、ユニホーム、リポート、レクリエーション、レジユメ、ワーカホリック、ロサンゼルス

フジテレビを見ても見ぬふりはやめましょう。

